就職活動体験記

年が明ければいよいよ、３年次生の就職活動が本格化する。内定を得た４年次生に、どのような思いで行動したか、キャリア形成支援課の活用方法、就活生へのメッセージなどを聞いた。

好きなことを仕事に。働くイメージ持って活動を

鴻巣 真緒さん
文学部
レジャーサービス企業内定

家族の影響もあり、小さいころからプロ野球観戦が好きでした。２年次には問題解決型チャレンジプログラムで、よみうりランドでの活動に取り組み、プロ野球２軍戦の集客企画の立案や運営に参加。プロ野球に関連する企業で働くことを具体的にイメージすることができ、その後の就活につながりました。

就活に向けて動き出したのは３年次夏のインターンシップから。準備を進めていくなかで、最初につまずいたのはエントリーシートでした。キャリア形成支援課に相談したところ、「伝えたいことがうまく文章化できていない」という指摘を受け、何度か添削してもらったことで、分かりやすく、熱量も伝わるものになりました。

企業選びでは、収入やワークライフバランスなどを考慮することも大切ですが、仕事を楽しめるかという視点を最も大切にしました。私は、「プロ野球」という分野に絞った活動となったため、特に情報収集の面で苦労しました。

好きなことを仕事にしたいと考えている人は、早くから就活をスタートさせるとともに、ギリギリまで諦めず、やりたいことを頑張れる環境を探してほしいと思います。

１年次		問題解決型ＣＰ※参加（受け入れ先：Cool Japan TV）
２年次		問題解決型ＣＰ※参加（受け入れ先：よみうりランド）
３年次	7月	夏インターンシップ参加
	10月	秋選考
	12月	秋冬インターンシップ参加
	2月	１社目内々定
	3月	本選考
４年次	5月	就活終了

※ 問題解決型ＣＰ＝問題解決型チャレンジプログラム

大事なのは場数を踏むこと。謙虚な気持ちで自分磨こう

鈴木 琉世さん
国際コミュニケーション学部
食品メーカー内定

大学１年次に中国東北料理の店で羊肉串を食べて以来、スパイスの魅力にはまり、スパイスに関連する企業に絞って就活に取り組みました。

３年次の夏までは順調だったものの、秋から調子を落とし、初めて受けたＳＰＩ試験は不合格。本命企業のインターンシップの選考からも漏れました。「これが自分の実力だ」と気づき、その後はギアを上げてがむしゃらに行動しました。場数を踏むことが大事と考え、テスト形式のＳＰＩ試験を30回以上、面接も20社以上受けました。

企業選びの際の選択肢を広げたこともプラスに働きました。生産過程や労働環境など、スパイスを多角的に捉える視点と知識が身につき、最終的に本命企業から内定をもらうことができました。将来は大学で学んだ語学を生かし、海外からの原料調達に携わりたいと考えています。

就活時に限らず、常に意識しているのが「謙虚でいられる自分に自信を持つこと」。謙虚さは伸びしろであり、成長につながります。就活とは、自分を見つめ直し謙虚になるための過程だと思いました。実践あるのみ。後輩の皆さん、自分を磨く大切な時間を精一杯頑張ってください。

２年次	10月	グローバルキャリア・サポートプログラム受講
３年次	6月	説明会参加、ＳＰＩ対策開始
	8月	夏インターンシップ参加 オープンカンパニー参加
	9月	GAB※1初受験
	10月	ＳＰＩ※2初受験
	2月	１社目内々定
４年次	5月	就活終了

※1 GAB（Graduate Aptitude Battery）＝総合適性診断テスト
※2 ＳＰＩ（Synthetic Personality Inventory）＝総合適性検査

大学院文学研究科歴史学専攻　韓国・東亜細亜文化財研究院　学術交流協定締結10周年

合同学術シンポジウム開催

専修大学大学院文学研究科歴史学専攻と韓国・東亜細亜文化財研究院との学術交流協定締結10周年を記念した合同学術シンポジウムが11月1日、神田キャンパスで開かれた。「加耶の港市と日本列島」をテーマに、日韓両国の研究者5人が韓国の慶尚南道昌原市にある朝鮮半島三国時代加耶（4～6世紀）の複合遺跡「石洞遺跡」に関する最新の調査・研究成果を報告した。

朝鮮半島三国時代に関心を持つ多くの方々が聴講

文学研究科と同研究院は2014年に国際交流組織間協定を締結。同研究院は埋蔵文化財の発掘調査や研究を行う韓国屈指の専門機関で、共同研究を行うなど考古学を通じて交流を深めてきた。シンポジウムに先立ち、高久健二文学部長と裵徳煥院長が、今後も日韓関係の進展に寄与していきたいとあいさつした。

本学からは、小林孝秀文学部准教授と丹治朱音さん（院文修2）が登壇。小林准教授は、昌原石洞遺跡と同じ港市の性格を持つ日本の4遺跡から加耶と倭の交流を探り、「海上交流に加えて河川や陸路を使った流通について

各発表後には両国の研究者による討論が行われた

も論究していくことが必要だ」とまとめた。

丹治さんは考古資料を考える際に問題となる伝世（製作年代と埋納年代に生じる隔たり）に着目し、「伝世や流通過程を東アジア全域に広げて調査することで新たな発見があるのではないか」と考察した。

最後に荒木敏夫名誉教授が「和を大切にしながら、今後も日韓で一緒に活動し、成果を残すことを期待している」と総括した。

就職だより

〈進路決定した4年次生へ〉進路決定者は「進路届」を就職支援システム「S－net」もしくはキャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。「in Campus」から「就職アンケート」の回答にもご協力お願いします。

〈3年次生へ〉第3回就職ガイダンスは、12月中旬～2月末の期間、オンデマンド形式の動画として限定公開します。採用選考のピーク前に整理しておきたいポイント、この時期に特に留意すべきこと、多様な就活の進め方（学校推薦等）について解説します。今後の準備に役立てていただくため、ぜひご視聴ください。詳細は、in Campusをご確認ください。

また、その他の支援プログラムとして、以下の企画も実施します。

●公務員・独立行政法人等業務説明会（オンライン）
平日毎日　12時25～55分
詳細は、S－net「お知らせ▼公務員関連情報」をご確認ください。

●企業人事担当者との模擬面接会（オンライン）
1月24日（土）
詳細は、S－net「支援行事▼能力開発」をご確認ください。

情報科学研「IT×ものづくり入門」子どもたちがプログラミング体験

プログラミングに挑戦する参加者

情報科学研究所の公開講座「IT×ものづくり入門」が11月8日に生田キャンパスで開催された。小学校高学年以上の子どもたちに「ものづくり」や「コンピュータの楽しさを体験しながら、世の中のITシステムの仕組みや意義を感じてもらおうと、毎年開催している。

当日は、マイコンボードの配線をつなぐ回路づくりや、デジタル灯籠を点灯させるプログラミングを体験した。ネットワーク情報学部の石井健太郎教授が講師を務め、5人の小中学生とその保護者らが参加した。

参加した小中学生は、ブロックを組み合わせてプログラミングする「スクラッチ」などはやったことがあったものの、この日はアルファベットでコードを入力するテキストプログラミングに挑戦。大学生レベルのコード入力が求められるが、自分たちで工夫しながら、色の変化や点滅時間を変化させ、プログラミングを楽しんでいた。